

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270300512		
法人名	(有)清福祉事業		
事業所名	グループハウスおよりの郷		
所在地	長崎県島原市秩父が浦町丁3543番地13		
自己評価作成日	平成 27 年 12 月 8 日	評価結果市町村受理日	平成 28 年 3 月 24 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/42/index.php?action_kouhvu_detail_2014_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=4270300512-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/42/index.php?action_kouhvu_detail_2014_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=4270300512-00&amp;PrefCd=42&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成 28 年 1 月 21 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達のホームでは、理念にも書いてある通り「家庭」という言葉を大切に想い、利用者様がこれまでの生活で習慣になされていた事、考え、思いを大切に今までの生活に近づける様、居室の家具等に特に決まった規定はなく馴染み深いものを使用されています。また、望みや、やりたいことなど尊重しお手伝いさせていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人内に高齢者介護相談センターの設置がある当概ホームは、介護拠点として地域や医療の相談役を担うと共に行政と現場の仲介役として、地域の介護力向上や情報発信に尽力している。職員の研修や勉強会で介護の専門知識を深め、また、言いたいことが言える関係性と職員のチームワークにより、入居者が安心して寛げる時間を生み出すことに努めている。家庭的な雰囲気と生活の場であることを意識した介護では、内服による弊害を理解し不必要に服用せず、家族と相談しながら職員との関わりや環境に変化をつける事で本人らしさを失わない介護に努めている。本人の生活歴から行動の理由を探り、幾度となる働きかけを行いながら穏やかな生活に繋げる努力は介護職としてのプライドを感じさせるものがある。法人の全体研修で職員の学びの機会が多く、医療や在宅介護等多角的な視点で物事をとらえ、職員を育てることに尽力する姿から、今後ますます期待の持てるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名 喜楽通り

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基に利用者様の意向を尊重してケアを行い、スタッフ勉強会の参加により更なる知識と技術を身につけ、安心、満足していただけのように取り組んでいる。	家庭的な雰囲気や大事にした理念を意識し、管理者は勉強会や外部研修への参加を積極的に働きかけ、職員間で具体的なケアの方法を話し合い取り組んでいる。専門的な知識を深めることで入居者や家族の安心に繋げ、明るい笑顔とゆっくりとした時間を生み出すよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の際に挨拶をしたり、立ち話をするなどして、交流の場を多くもてるよう気がけている。	近隣の方との日常的な挨拶や立ち話、また、地域の清掃活動を通して交流の場を多く持つことで地域との繋がりを深めている。地元の舞踊サークルや幼稚園訪問を受け入れ、入居者が地域との関係性をつなぐ役割を担うと共に認知症高齢者への理解にも繋げるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩の際に挨拶をしたり、立ち話をするなどして実際利用者様と接して来ているが、職員研修などの資料をご近所にも配布できたらと考える。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回開催されている中での意見は有効に生活、介護に反映している。	推進会議ではホームでの取組や行事、また、入居者の心身の状態を報告しホーム運営の透明性が図られている。参加者からの質問も多く、ホームに関心を持って関わって頂いている様子も窺えた。また、支援への思いや取組を伝えるきっかけにもなっており、家族や地域への理解にも繋がるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通し情報の開示、意見の交換を行っている。	法人代表は市町村事務局や介護事業者との接点も多く、地域や事業者の相談役をはじめ、行政と現場の声を代表者として発信し、行政と事業者との仲介役を担っている。入居者や家族の不安を行政に繋げ、関係機関への相談を行いながら入居者・家族が安心して過ごせるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	資料を準備し、職員が知識、意識の共有が出来るようにしている。当ホームにおいては、身体拘束は行われていない。	入居者の焦燥感や不安等を理解し、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。家族の同意を得て入居者の怪我への回避を目的にセンサーの使用を行っているが、研修や勉強会への参加も多く、知識を深めながら使用目的や必要性を職員間で話し合い、拘束を行うことへの弊害や代替を検討しながら身体拘束をしないよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料を準備し、職員が知識、意識の共有が出来るようにしている。当ホームにおいては虐待の実態は無い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などで学んでいる職員もいるが全員ではない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項等の説明を十分に行い、解約、改定の際も理解、納得されるよう十分説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などご家族へ状態を伝えると共にご家族の希望、利用者様の希望を伝え意見を引き出すことが出来るよう取り組んでいる。	家族面会時には暮らしの様子を積極的に伝え、家族の意向や要望を尋ね引き出す機会としている。入居者の希望はミーティングで職員に周知し、家族と共に生活を支える取組があるが、家族への状況報告やホームの取組が伝わっていない現状が窺える。	来訪時や推進会議等の参加家族から意見を聞き、反映させる取組があるが、あまり話をできない方や意見を言い出しにくい方がいる事を考慮し、相互に認識できるような周知方法や意見の集約方法を見直す等、家族の意見を把握するための更なる工夫を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や毎日のミーティングの際、職員の希望や業務に対する要望を代表者、管理者に伝え職場環境の改善につなげられている。	管理者は日常的に直接介護を行い、職員間での情報交換や入居者の状態を把握し、体調や症状の変化に迅速に対応できるよう取り組んでいる。職員の休憩時間を確保できる体制に変更し入居者とのゆったりとした時間を作るよう取組職員のモチベーションの向上を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員研修や勉強会を通し、意識付け、モチベーションの向上を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員研修や勉強会を通し、レポートの提出などで職員個人づつの意識や思いを知るように働きかけがなされている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島原半島GH連絡協議会に参加して、研修、勉強会に多数の出席を呼びかけ、サービスの質の向上がなされるよう情報交換や講義などで得た知識を実践に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様と会話する機会を多くし、個別に行動、言動を記録するなど、職員間の情報の共有を働きかけ利用者様にとって行き届いたサービスの提供がなされるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス内容や理念を伝えると共に希望、思いの聞き取りがなされている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス内容や理念を伝えると共に希望、思いの聞き取りがなされ適切なサービスが受けられるよう働きかけがなされている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	極力同じ目線で共同生活者としての姿勢はもたれているが、建物などのハード面でのバリアフリーだけではなくソフト面でのバリアフリーでの関係作りに努めた。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様を支える存在として関係機関と連携をとり、ご家族の心的負担の軽減を図ると共にご家族の協力も重視したケアを心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様が本人らしさを継続できるよう生活歴などを基に調度品の持ち込みなどの環境整備をはかりご家族の協力を得ている。	家族より入居以前の対人関係を把握し、受診後友人や兄弟の面会に繋げるなど家族の協力も重視したケアを心がけている。担当者が入居者を囲む環境マップを作り、本人が大事にしてきた友人や場所へ訪問し、思いを繋げる働きかけに取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中での利用者様同士の関係はおおむね把握できている。サービスを提供し続ける者として、より楽しみをもって共同生活されるような働きかけがなされている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後であっても、ご家族から相談していただける、相談しやすいような関係作りが心かけられている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話、利用者様同士の会話の中から思いや希望を汲み取れるような意識付けがなされている。	日頃の会話や入居者同士の会話の中から思いを汲み取るようにしている。意思疎通が困難な入居者に対しては、本人の行動を観察しながらこれまでの暮らし方を探り、これまでの習慣や考え方等家族と協力しながら本人の思いに添った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	関係機関からの情報プラス、利用者様、ご家族からのお話を基に生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のミーティングの中で、利用者様が『今』必要とされているケアが何であるかの検討、状態の把握の働きかけがなされている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様、ご家族の意向を基に居室担当者、計画作成者が共同で評価と作成、ご家族に対しても、それぞれの評価、説明、同意が行われている。	介護計画は本人や家族の意向をもとに担当職員が原案を作成し、入居者が有する力が維持できるように入居者の生活に添った支援が提供されている。個人記録には生活のエピソードが記載され、入居者のその日の出来事や身体状況が握できるものとなっている。	ケアプランを実施するにあたっては家族の同意は得られているものの、家族の声としては幾分理解がなされていない様子が窺われる。連絡を取り辛い方ともケアプラン作成に共通認識が持てるよう、家族へわかりやすい説明や意見を引き出す工夫に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一目で利用者様の一週間の生活の様子が分かり記入しやすい、見やすい書式が使用され、職員の情報共有がなされており、居室担当者、計画作成担当者、その記録を基に、評価、計画の作成を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じご家族、医療機関との連携を図りながら必要かつ柔軟な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じご家族、医療機関との連携を図りながら必要かつ柔軟な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	なじみのある医療機関での受診支援を基に利用者様の『今』を支える為の検討、医療機関の選択がなされている。	法人代表者は日頃から医療関係機関との関係作りがなされており、症状に応じた受診先を家族と共に検討しながら入居者の症状維持、回復に努めている。行動障害に対して環境を整え対処すると共に、内服状況の変化を細かく記録に残し、入居者に応じた内服量や服薬方法の調整に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護、介護の協働が充実しており、その時その時の利用者様に必要なケアが行われている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護、看護サマリーでの情報提供や面会時の医療機関関係者との対話による情報交換がなされており、時間が許す限りではあるが面会にも行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りについての指針」は定められており、入居契約時にご家族への説明はなされている。	看護師の訪問や居室での点滴等医療との連携を図り、家族と共に医療の比重が重くなるまで状態に応じた対応を行っている。家族や本人の意向確認や対応の検討等研修を通して知識を深めながら、今後も希望があれば対応していく意向である。入居者や家族の方向性を早期に確認し、ホームだからこそできる看取りを今後の課題として検討中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応はマニュアルとして挙げられてはいるが訓練の定期的な実施はなされていないが、連携した行動がとれてきている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防署立会いの下、消火、避難訓練がなされている。	昨今の自然災害に強い意識を持ち、入居者や地域住民の安心や安全対策に向け、法人代表者が企業と協力し災害対応型自販機の導入に繋げた。年2回の避難訓練の際には職員である消防団員が中心となって消火訓練等に取り組んでいる。全職員が有事の際の一連の流れを体得するためには反復した訓練の必要性を感じている。自然災害に対する意識が不足しているため、火災時の訓練と共に更なる防災意識を持つ事をお願いしたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修会や勉強会を通し利用者様と共同生活を送るものとして適切な対応がなされている。	職員は入居者に対して目上の方であることを意識し、研修や勉強会を通して接遇に関するマナーや心遣いに対する認識を深めている。入居者の意思決定を尊重しながら入浴の時間帯や余暇の過ごし方を選択でき、それぞれの日課や、本人に合わせた支援方法を検討しながらケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に本人様の意向を確認、実現できるような働きかけがなされている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間・食事・入浴・就寝時間など利用者様の生活ペースに合わせるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	随時、希望は受け付けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事や食事準備など出来る範囲で一緒に行っている。	入居者がお湯を沸かしたり冷蔵庫を自由に使えるなど積極的に台所を利用できるよう支援している。食事を通して季節を感じ、年末には入居者と共に餅つきを楽しみ、入居者のこだわりやこれまでの力が発揮されるなど入居者の自信に繋がった事例も確認できた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量の管理は一目で分かるよう表へ記入、管理されている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日、声かけを行い口腔ケアを勧めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方には、その人の排泄パターンにより適切な時間、時間で誘導を行い、極力トイレで排泄できるよう勧めている。	できるだけオムツを使わない方針であり、時間を見ながら入居者をトイレ誘導し失敗しないよう努めている。立ち上がりや立位保持など日常生活の中で動作や能力が維持できるよう声かけや介助を行い、軽度な運動を積極的に取り入れながら自然排泄に向け取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ薬に頼らず食物繊維の多い、食べ物や牛乳、散歩や体操を勧めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人様の希望を重視して入浴日は決めず、チェックシートで確認、把握、出来ている。	入浴の時間帯や入浴日を自由に選択でき、入居者がいつでも入浴できるような体制を整えている。同姓介助や安心して入浴できるよう時間を調整すると共に、入浴の際にも皮膚状態の変化に注意を払い、症状が悪化しないよう早期受診に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝る時間は設定していない。眠くなられた時に休んでいただいている。寝具については本人様の使い慣れたものを使用いただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書を全員分準備して、マニュアルを置き、意識付けを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事に詳しい方、食器洗いや洗濯たたみなど得意な方とそれぞれいらっしゃるので、その方を中心として行っている。ドライブや塗り絵など他の分野の楽しみの提供にも心がけている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、ドライブ、お墓参り、足湯など、その時、その時の希望に対応できるように心がけている。	重度化し日常的な外出の機会が困難な入居者も増えているが、福祉車両を利用しながら体調を見て近隣の公園へ散歩に出かけたり、季節の催しや花見見物に出かけるなど、四季に触れる事ができるよう取組んでいる。家族との関わりを更に深め、協力を得ながら今後も課題意識を持って取組む意向である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身で管理されている方は少ないが、持っていることで安心される方もおられる為、すべて預かることはしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は事務所の電話を使用し、間違えられないよう職員が見守りながら行っていただけしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その季節の花を飾ったり、季節を感じていたけような演出を行っている。	車いす使用でも安心して移動できるような動線が確保され、また、職員による手入れによって清潔感や心地よさが感じられる。入居者がゆっくり過ごせるソファでは、家庭的な雰囲気の中で寛いで会話を楽しむこともできる。壁面には季節ごとに飾り付けや、行事毎に思い出の写真が掲示され場を和ませる工夫が感じられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にソファを置いたり、畳を敷き気楽にくつろげる空間を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力の下、ご本人様が、よりご本人らしく暮らせる空間作りに気を配ってる。	身体状況によってベッドの向きや家具を配置し本人の手が届く高さに手まわり品が準備されている。入居者のこだわりや生活歴を大事にした家具や道具が身近にあり、家族と相談し協力を得ながら本人のこれまで大事にしてきた生活の継続ができるよう、安らぎの空間が準備されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとり出来ること、わかることの役割をもたれているが全員ではない。		

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名 渚通り

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基に利用者様の意向を尊重してケアを行い、スタッフ勉強会の参加により更なる知識と技術を身につけ、安心、満足していただけのように取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の際に挨拶をしたり、立ち話をするなどして、交流の場を多くもてるよう気がけている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩の際に挨拶をしたり、立ち話をするなどして実際利用者様と接して来ているが、職員研修などの資料をご近所にも配布できたらと考える。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回開催されている中での意見は有効に生活、介護に反映している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通し情報の開示、意見の交換を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	資料を準備し、職員が知識、意識の共有が出来るようにしている。当ホームにおいては、身体拘束は行われていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料を準備し、職員が知識、意識の共有が出来るようにしている。当ホームにおいては虐待の実態は無い。		

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などで学んでいる職員もいるが全員ではない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項等の説明を十分に行い、解約、改定の際も理解、納得されるよう十分説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などご家族へ状態を伝えると共にご家族の希望、利用者様の希望を伝え意見を引き出すことが出来るよう取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や毎日のミーティングの際、職員の希望や業務に対する要望を代表者、管理者に伝え職場環境の改善につなげられている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員研修や勉強会を通し、意識付け、モチベーションの向上を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員研修や勉強会を通し、レポートの提出などで職員個人ずつの意識や思いを知るように働きかけがなされている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島原半島GH連絡協議会に参加して、研修、勉強会に多数の出席を呼びかけ、サービスの質の向上がなされるよう情報交換や講義などで得た知識を実践に活かしている。		

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様と会話する機会を多くし、個別に行動、言動を記録するなど、職員間の情報の共有を働きかけ利用者様にとって行き届いたサービスの提供がなされるようにしている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス内容や理念を伝えると共に希望、思いの聞き取りがなされている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス内容や理念を伝えると共に希望、思いの聞き取りがなされ適切なサービスが受けられるよう働きかけがなされている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	極力同じ目線で共同生活者としての姿勢はもたれているが、建物などのハード面でのバリアフリーだけではなくソフト面でのバリアフリーでの関係作りに努めた。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様を支える存在として関係機関と連携をとり、ご家族の心的負担の軽減を図ると共にご家族の協力も重視したケアを心がけている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様が本人らしさを継続できるよう生活歴などを基に調度品の持ち込みなどの環境整備をはかりご家族の協力を得ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中での利用者様同士の関係はおおむね把握できている。サービスを提供し続ける者として、より楽しみをもって共同生活されるような働きかけがなされている。	
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後であっても、ご家族から相談していただける、相談しやすいような関係作りが心がけられている。	

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話、利用者様同士の会話の中から思いや希望を汲み取れるような意識付けがなされている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	関係機関からの情報プラス、利用者様、ご家族からのお話を基に生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のミーティングの中で、利用者様が『今』必要とされているケアが何であるかの検討、状態の把握の働きかけがなされている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様、ご家族の意向を基に居室担当者、計画作成者が共同で評価と作成、ご家族に対しても、それぞれの評価、説明、同意が行われている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一目で利用者様の一週間の生活の様子が分かり記入しやすい、見やすい書式が使用され、職員の情報共有がなされており、居室担当者、計画作成担当者、その記録を基に、評価、計画の作成を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じご家族、医療機関との連携を図りながら必要かつ柔軟な支援を行っている。		

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じご家族、医療機関との連携を図りながら必要かつ柔軟な支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	なじみのある医療機関での受診支援を基に利用者様の『今』を支える為の検討、医療機関の選択がなされている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護、介護の協働が充実しており、その時その時の利用者様に必要なケアが行われている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護、看護サマリーでの情報提供や面会時の医療機関関係者との対話による情報交換がなされており、時間が許す限りではあるが面会にも行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りについての指針」は定められており、入居契約時にご家族への説明はなされている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応はマニュアルとして挙げられているが訓練の定期的な実施はなされていないが、連携した行動がとれてきている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防署立会いの下、消火、避難訓練がなされている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修会や勉強会を通し利用者様と共同生活を送るものとして適切な対応がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に本人様の意向を確認、実現できるような働きかけがなされている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間・食事・入浴・就寝時間など利用者様の生活ペースに合わせるようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	随時、希望は受け付けている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事や食事準備など出来る範囲で一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量の管理は一目で分かるよう表へ記入、管理されている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日、声かけを行い口腔ケアを勧めている。	

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方には、その人の排泄パターンにより適切な時間、時間で誘導を行い、極力トイレで排泄できるよう勤めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ薬に頼らず食物繊維の多い、食べ物や牛乳、散歩や体操を勤めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人様の希望を重視して入浴日は決めず、チェックシートで確認、把握、出来ている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝る時間は設定していない。眠くなられた時に休んでいただいている。寝具については本人様の使い慣れたものを使用いただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書を全員分準備して、マニュアルを置き、意識付けを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事に詳しい方、食器洗いや洗濯たみなど得意な方とそれぞれいらっしゃるの、その方を中心として行っていただいている。ドライブや塗り絵など他の分野の楽しみの提供にも心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、ドライブ、お墓参り、足湯など、その時、その時の希望に対応できるように心がけている。		



50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身で管理されている方は少ないが、持っていることで安心される方もおられる為、すべて預かることはしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は事務所の電話を使用し、間違えられないよう職員が見守りながら行っていただけしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その季節の花を飾ったり、季節を感じていただけるような演出を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にソファを置いたり、畳を敷き気楽にくつろげる空間を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力の下、ご本人様が、よりご本人らしく暮らせる空間作りに気を配ってる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとり出来ること、わかることの役割をもたれているが全員ではない。		